

謙虚さ？自信のなさ？ そして、「おばあさん仮説」

先日学校に送られてきた冊子に以下のような記事がありました。

日米中韓の高校生を対象にした国立青少年教育振興機構による意識調査(2015年)の結果

	他国(米中韓)	日 本
「自分には人並みの能力がある」	70～90%	55.7%
「自分はダメな人間だと思うことがある」	30～60%	72.5%

つまり、他国と比べる日本の子どもたちは自信のなさがかえらるという数字です。これについて、専門家による分析では2つの見方があります。

- ①謙遜したり謙虚に表現したりする日本の国民性から、自己肯定感が実態よりも低く表れている。
- ②実際に、自信がない、自分を無価値と感じる者が多い。



さて、みなさんはどちらだと思いますか？このような報道は他にも見られることがあったかと思えます。確かに、日本人の美德とも言える謙虚さに裏付けされたところもあるでしょう。また、自信のない若者の増加は実際に感じることです。若者の自信の在り方が、社会全体の活気を示すバロメーターの一つとして見るならば、自信のない若者の増加は社会的な問題であるとも言えます。

話は変わりますが、この冊子の数週間前の記事には「おばあさん仮説」というものもありました。

おばあさん仮説

生物学上、全ての生物において自分の種(子孫)を残すというのは、その生物が生きる目的とも言えます。この意味で考えると、ほとんどのほ乳類の雌は「子どもをつくる能力」を失うと、ほどなくしてその命を失います。しかし、人間の女性はその能力がなくなっても、長く生きることができます。(男性もかも)これは、他のほ乳類には見られない特異な現象でもあります。



では、なぜ人間だけが「子どもをつくる能力」がなくなっても長く生きることができるのか？そこに「おばあさん仮説」というものを提唱する科学者が多くいます。自分の子どもの子育てをフォローするために長く生きることができるのではないかとこの仮説です。自分の子どもが成長し出産した後、様々な方法で子育ての手助けをしてやる、自分の子育ての経験を出産した自分の子どもに教える、つまり自分の孫の成長に関わるためにこのように進化したという説です。

さて、一見関係のなさそうな2つの記事を私なりにまとめると、「子どもや若者に自信を持たせるために、我々人間が『子孫をつくる』という能力をなくしても長く生きていく」というのだったらいいなあ…、というのが私の仮説であり、希望です。

実際、大島分校の「学習発表会&ミニレクリエーション大会」にみえてくださっている多くのみなさんが、にこにこしながら子どもたちの様子をご覧になり、声をかけてくださっている様子や先日の「熟年大学との交流」での温かな眼差しを見るとき、そのふれあいによって子どもたちは人の温かさに触れ、自己肯定感や自分の存在感を確かめているように思います。

ある意味、いつの時代も自信がないのが若者だったのかもしれませんが。目の前の子育てに追われている親世代をサポートし、温かい目で子どもたちを見つめ、温かい言葉をかけてやる、それが自分の孫でなくとも孫世代の若者を育てることに大きく貢献することにつながる、そんな小値賀の「おばあさん仮説、おじいさん仮説」であればいいと思います。

「いつも、ばあちゃんはいいとこばかりって、孫たちに嫌われるようなことは言わないんだから…。」といらいらしている若いお父さん、お母さん方、それがおじいちゃん、おばあちゃんの意味の一つであるかもしれません。大目に見てください。だいたい、父母と祖父母の子育てにおける立場は違いそうです。それで子どもたちがいろいろなことに自信を持てばそれでいいじゃないですか。



前期・中期・後期人権集会

昭和23年(1948)12月10日の国際連合第3回総会で、世界人権宣言を採択したのを記念して、日本では昭和24年(1949)に「法務省」と「全国人権擁護委員連合会」が12月10日を最終日とする1週間(12月4日～12月10日)を「人権週間」と決めました。これに先立ち、小値賀の小・中・高でも小1～小4までの前期、小5～中1までの中期、中2～高3までの後期に分けて人権学習会を行いました。



小1～小4までの前期人権学習会では、4年生がリーダーとなり司会・進行を務めます。4年生がリーダーとなる行事はこの人権学習会と前期遠足(10月実施)の2つです。この人権学習会もそれまでの準備や練習の成果もあり、見事に堂々とやってくれました。内容としては、校長講話、学年の宣言、集団ゲーム、「これからの自分宣言」です。私の話は、マーティン・ルーサー・キング牧師のことを紹介しながら、人種差別のことに触れ、子どもたちの中にもあるかもしれない差別(体のこと、男女のこと、運動能力など)のことを取り上げ、「この差別を見つける力」を養う週間であることを話しました。



この前期人権学習会を見ていて、違和感というか気づいたことが一つ。「これからの自分宣言」のことです。1年生から4年生の全員54名が、「私○○○○○は、人にひどく言うときがあります。だから、もっと思いやりを持って話せるようになります。」というように自分宣言をしていきます。初めは「よく自分を振り返っているな。」と思いながら聞いていたのですが、しばらくすると「本当にこれでいいんだろうか？」という疑問が生まれてきました。要するに、「自分の悪いところ」を人前で暴露しているのです。今回の学校だよりの表面を書き始めた頃でもあったので、「これは子どもたちに自己肯定感を高めさせること、自信を持たせることにつながっていないのではないか。」ということです。もちろん、このような行事は最終的には私の判断で内容を決定します。この数年間続けられた活動で、私もこの活動が計画されていることは事

前に知っており、私の責任のもとに行っている活動です。実際に見て、自分自身反省しました。

お忙しい中に、保護者の皆様も30名ほどご参加くださっていました。その光景を見ながら、この活動をもとにご家庭ではどんな会話になるのだろう想像してみました。

あんた、よく自分を振り返っていたね。そうね、あんたのそこは悪かもんね。変えていかんばね。



あんまりうれしくないような…。

こんな、会話をご家庭でしていただくための集会ではないはずですが。ここは来年度変えていきたいと思いました。できれば、「ぼくは、人を笑わせるのが得意だから、みんなを笑顔にしたい。」とか。

なんでもないことかもしれませんが、こんなことの積み重ねが、子どもたちの自信の有り様につながっているのではないかと思った1日でした。

思いっきり、堂々と

小値賀小では毎年恒例になっている「特技発表会」を7日(水)の昼休みに開催しました。1～6年生で21組のパフォーマンス、のべ47名(一人で2つの発表をした子もいた)が自分の得意なことを披露しました。これだけの人数の子が、失敗を恐れず堂々と表現できるのは素晴らしいことです。昼休みに練習をした一輪車、授業で学んだ合奏や跳び箱、友だちと考えたものまねやコント、日頃習っているピアノや剣舞、多種多様の発表を全校で応援し認め合う素敵な時間でした。失敗しても、つまずいても温かい拍手で讃え合っていました。来年は、保護者の皆様にももっと見てもらえるように何かしら工夫をしたいと思いました。



児童玄関前に掲示している「どうどうリクエスト選手権」もエントリー数が増えました。授業参観の折にはちょっと早めにご来校いただき、リクエストをしていただければ子どもたちの励みと自信につながります。よろしく願います。